

書あらしめしもの鈴八十鳥屋銅鷹よき人などいへ
古謡よ春の雌鳥と金鳥とる事をぞと此金鳥の事か
一條院御宇の故事とも武用辨略よりりくおせれど此
歌の外は事なりともハあはハ志るさじ

なくるをねづあそびねねる小鈴のよきくおるこの人

鈴のよきひるハ鈴をきぬをきぬのよきハあぬ

あぬよきいづれ也鈴のよハ鈴の中ハあむと云樺又

木の枝やうの物ときくなくぬやうにきくもやみのもハ

鳴るを夜よりゆきく報とく鈴のよきくをきぬねと

いへる也鈴ハ鈴緘毛又ハ鈴巻ともきく尾のよきハあ